

北海道各地から産出する黒曜石
その9いくたはらちいき
生田原地域

(Ikutahara Area)

生田原町周辺では、これまで数年間にわたって行われてきた広域調査によって様々な黒曜石が確認・採取されています。例えば、清里地区においては、真珠岩質流紋岩中にマレカナイト球が含まれていることを確認したり、矢矧川では、河川礫として小指の先程度の良質の黒曜石礫を発見しています。金華峠付近の上金華地区では、鮮新世の小松沢層中(沢村ほか、1965)に、灰～黒色を呈する5mm前後の黒曜石の小片を発見しています。これらは全て新発見です。

生田原地域では、背谷牛山山頂より南南東にある488mのピーク(マップの459mピークから南西約825m付近)をもつ尾根の南側斜面に散乱している数cm大の黒曜石を採取したり、仁田布(にいたつぷ)川の河川礫から多くの黒曜石を採取しています。黒曜石は、数cm大～握りこぶし程度、最大で直径約16.0cm程度のもも採取できます。漆黒色でガラス光沢を有し、球顆は含まず貝殻状断口を呈するので、石器の石材としても良質であり十分使用可能です。

それに対し、前述の488mのピークをもつ尾根の北側斜面や、仁田布川を挟んで東側の斜面、更に仁田布川の上流側では、黒曜石の礫を一切確認できませんでした。このように生田原地域では局所的な産出と考えられますが、黒曜石がこの地域において、確認・採取されたことは全く無く、これまでの向井の調査によって初めて新しい原産地であることが確認されました。

今回採取した黒曜石は周辺の地質を考慮して、新第三紀中新世の生田原層(流紋岩Ⅰ)(山田ほか、1963)に相当すると考えられます。また、分析をしてみると、生田原Ⅰ組成グループと生田原Ⅱ組成グループに分かれそうなので、同一の噴出源で組成の異なる溶岩が2枚存在する可能性があります。

今回の調査で新原産地が判明したので、今後、遺跡から発掘される黒曜石製の石器のEPMAによる分析が進めば、生田原産の黒曜石が周辺の遺跡で使用されたことが明らかになると十分期待できます。

(学芸員 向井 正幸)



仁田布(にいたつぷ)川からガラス質で良質の黒曜石の礫を採取可能である。



生田原の地域では、10数cmの大の良質な黒曜石の礫が見つかった。新原産地。



地表にも黒曜石の礫があちこちに散乱していた。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

